

## 目指す村の姿3：

### 豊かな自然と歴史文化を守り継承します

<u>基本施策8 中城の美しい自然環境を保全します</u>		
分野8-1	自然環境の保全	61
<u>基本施策9 地球環境に配慮した取組みを推進します</u>		
分野9-1	ゴミ減量とリサイクルの促進	63
分野9-2	気候変動への対応	65
<u>基本施策10 文化財を保存・継承します</u>		
分野10-1	歴史環境の保存・活用	67
分野10-2	伝統文化・民俗芸能の継承	69
分野10-3	住民意識の高揚及び周知啓発	70

分野 8-1 自然環境の保全

■現状と課題

丘陵斜面域及び台地域に分布する森林は、本村の自然景観を特徴づけており、水源涵養や村土保全及び動植物の生息環境の形成など重要な機能を果たしています。また、中城湾に面した海岸域は海浜及び沿岸海域の自然景観を形成しています。

こうした中で、ライフスタイルの変化に伴う自然環境の悪化は、ここ数十年の中で顕在化してきており、また近年においては、想定を超える大雨等による災害の危険性も高まっており、特に広大な斜面緑地を有する中城においては、災害を未然に防ぐという観点での自然環境の維持が求められます。

そのため、将来にわたってかけがえのない自然を守り育て、共有財産として受け継ぐことを目指し、身近な自然に親しむ機会を創出し、環境保全への意識高揚に努める必要があります。

■関連計画

『中城村森林整備計画』（令和4年3月／産業振興課）



中城湾に面した海岸線



斜面緑地

■取り組みの方向性と成果指標（目標指標）

1 環境保全の推進

環境保全を確実に進めるために、実態把握、保全・再生の方針検討、取り組みの実践を段階的に推進します。また、現状において実施している取り組みについては、今後も継続していきます。

主な取り組み	所管課	指標分類
自然環境の実態把握と動植物の適切な保全	産業振興課	IV
斜面緑地・農地周辺・海辺の適切な保全・再生	産業振興課	IV
海岸や河川の美化推進	産業振興課 都市建設課	IV
緑のネットワークの創出	産業振興課 都市建設課	IV
丘陵斜面域の森林保全・育成による地すべり防止や、新規開発の抑制	産業振興課	IV
海岸地域における防風・防潮林帯の造成による防災機能の強化	産業振興課	IV

2 環境教育の推進

学校教育の現場や生涯学習との連携の中で、体験を通して中城の自然環境を知り、理解するためのプログラムを実践します。

主な取り組み	所管課	指標分類
自然環境や生活環境の保全に向けた環境教育の実施	住民生活課	II

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
小中学校への講座の実施回数	II	1回/年	1回/年	1回/年



**水源涵養**  
水資源の貯留、洪水の緩和、水質の浄化といった機能や、雨水の川への流出量を平準化したり、あるいは、おいしい水を作り出すといった森林の働き。

**環境教育**  
環境問題等について様々な機会を通じて学習すること。

## 分野9-1 ゴミ減量とリサイクルの促進

### ■現状と課題

ゴミ対策は、村民の日常生活に密接しているため、きめ細かな施策需要が高く、これまで収集システムの改善や円滑な処理体制の強化などを推進してきました。しかし、この10年における人口増加に加えて、特に令和2（2020）年以降は、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響もあり、ゴミの搬入量は年々増加傾向にあります。また、産業廃棄物等の不法投棄については、パトロールの強化等により対策を進めていますが、現状においても大きな課題であることは否めません。

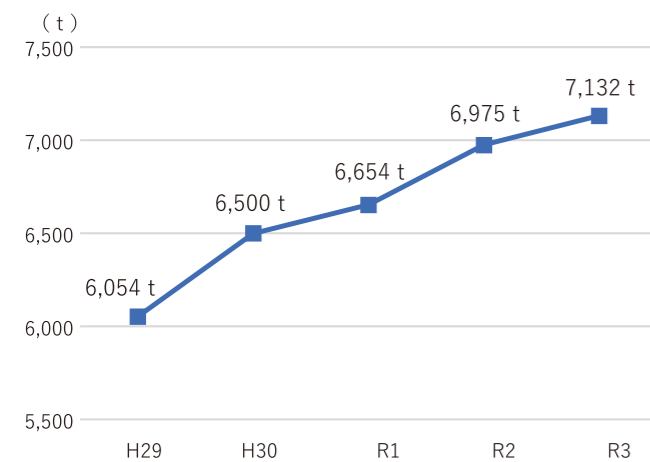
一方で、令和11（2029）年度に広域処理施設の供用開始が予定されており、処理能力の向上による対応が期待されるのですが、ゴミの排出量を減らしていくという視点で、村民の意識啓発や取組みを拡充していくことも重要です。特に、新しい村民が増えたことによるライフスタイルの多様化等を勘案し、村民ニーズに即した収集の仕組みへの調整や、自家処理、リサイクルの促進に向けた取組みのさらなる拡充が求められます。

### ■関連計画

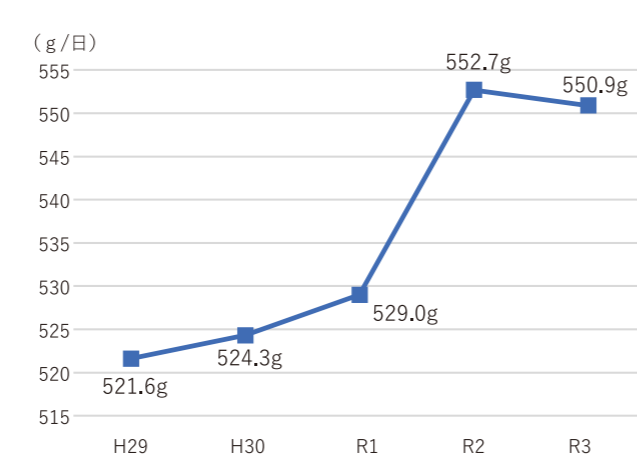
『中城村一般廃棄物処理基本計画』（平成30年3月／住民生活課）

### ■データ

#### ゴミの搬入量



#### 一人当たりのゴミ排出量



### ■取組みの方向性と成果指標（目標指標）

#### 1 ゴミ減量対策の推進

3Rによるゴミ減量化への意識高揚と自家処理の促進という2つの取組みをさらに強化していきます。

主な取組み		所管課	指標分類
ゴミの減量化に対する意識高揚		住民生活課	I
生ゴミ処理機等の導入による自家処理の促進		住民生活課	II

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
一人当たりのゴミ排出量	I	550.9g/日	520g/日	490g/日
生ゴミ処理機等購入補助金申請件数	II	10件/年	10件/年	10件/年

#### 2 ゴミ処理施設の効率的な運用と維持管理の推進

ゴミ処理量の動向をふまえ、現有処理施設の維持管理を徹底し、効率的な事業運営を推進します。

主な取組み	所管課	指標分類
ゴミ処理施設の適切な維持管理の継続	住民生活課	IV

#### 3 リサイクルの促進

リサイクル推進体制への支援拡充や分別の細分化を始めとした具体的な施策を展開します。特に伐採木材等については現在可燃物扱いとなっていますが、リサイクルによるチップ化や堆肥化を検討します。

主な取組み	所管課	指標分類
資源ゴミリサイクル推進体制への支援拡充による自主的な活動の促進	住民生活課	III
分別収集の推進及びゴミの減量化のための具体的な施策の検討	住民生活課	III

#### 4 不法投棄への対応

廃棄物の不法投棄に対する監視を強化し、必要に応じてパトロールを実施しながら、景観保全や環境美化に努めます。

主な取組み	所管課	指標分類
不法投棄の監視強化に向けた体制・設備の強化	住民生活課	II

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
不法投棄監視カメラの設置数	II	21台	25台	25台

#### 5 周辺市町村との連携強化

安定的かつ効果的な廃棄物処理を継続するため、新たな処理施設の整備を推進するとともに、災害時等の近隣市町村との連携を強化します。

主な取組み	所管課	指標分類
円滑なゴミ処理のための広域化及び処理システムの拡充	住民生活課	IV
災害時等のゴミ処理における近隣市町村との連携強化	住民生活課	IV



#### 自家処理

一般廃棄物を家庭などで自ら処理すること。生ごみを堆肥にしたり家畜の飼料としたりする場合など。

#### 3R

Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の総称。ゴミの発生を抑制する、何度も使う、再資源化することでゴミを減らす取組みのこと。

#### 生ゴミ処理機

乾燥または微生物による分解によって、生ゴミを減量化及びたい肥化させる機器。購入に対して助成金制度を設けている自治体も多い。



ゴミ処理施設（青葉苑）



## 分野 9-2 気候変動への対応

### ■現状と課題

近年、全世界的に異常気象に伴う災害が頻発する等、気候変動は全ての国にとっての喫緊に対応すべき課題となっており、地球温暖化に対する対応として、二酸化炭素の排出量削減等に取り組んでいく必要があります。特に令和2(2020)年に国によって「2050年カーボンニュートラル」の宣言が行われたことにより、日本でもグリーントランスフォーメーション(GX)という言葉が注目され始めました。これは、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換に向けて、社会経済を変革するという概念であり、本村においても、村民の気候変動に対する意識醸成を皮切りに、次世代のエネルギー導入に向けた検討を進めていかなければなりません。

### ■関連計画

『中城村地球温暖化対策実行計画』(平成29年3月/住民生活課)

### ■取組みの方向性と成果指標(目標指標)

#### 1 再生可能エネルギーへの取組み推進

中城に適した再生可能エネルギーの導入検討と、再生可能エネルギー導入に対する支援に向けた検討を行います。

主な取組み	所管課	指標分類
本村に適した再生可能エネルギーの把握と積極的な導入	全課	IV

#### 2 脱炭素社会へ向けた取組みの推進

暮らしの中で実践できる脱炭素への取組みを広く村民に周知し、理解を深めていきます。

主な取組み	所管課	指標分類
脱炭素ライフスタイルの実現に向けた村民意識の啓発	住民生活課	II

指標	分類	基準値	前期目標(R7)	最終目標(R15)
広報の実施回数	II	2回/年	2回/年	2回/年



**カーボンニュートラル**  
温室効果ガスの排出量から森林等による吸収量を差し引いて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること。政府は2050年の達成を目指している。

**グリーントランスフォーメーション(GX)**  
カーボンニュートラル実現のため、温室効果ガスの排出源である化石燃料や電力の使用を、再生可能エネルギーや脱炭素ガスに転換することで、社会経済を変革させること。

**再生可能エネルギー**  
非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができると認められるもの。(例:太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスなど)

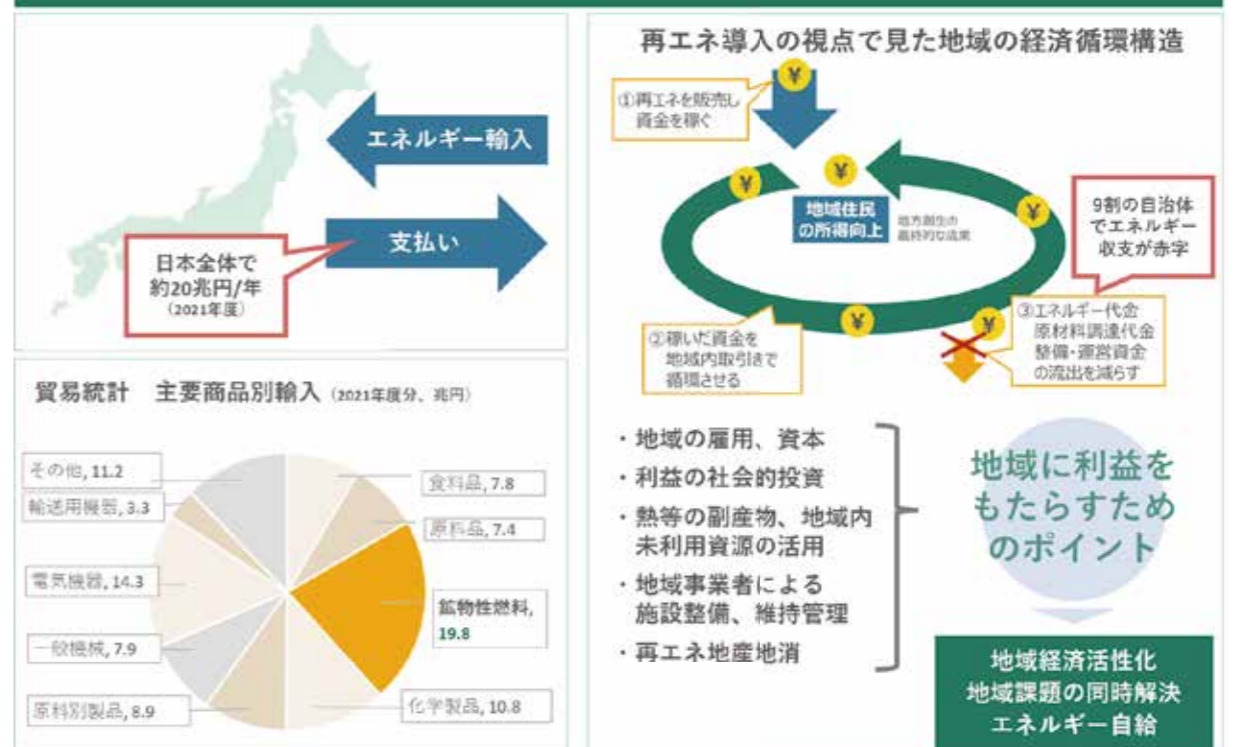


役場庁舎の屋上に設置された太陽光パネル

### ■脱炭素の地域づくり

2020年10月、日本は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、「2050年カーボンニュートラル」脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。また、2021年4月には2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指すこと、さらに50%の高みに向け挑戦を続けることを表明しました。目標達成のためには、国と地方の協働による取組みが不可欠となっており、特に地域における再生可能エネルギーの導入拡大が鍵となります。

### 地域の再生可能エネルギーの活用等による地域経済への効果



環境省ホームページより引用



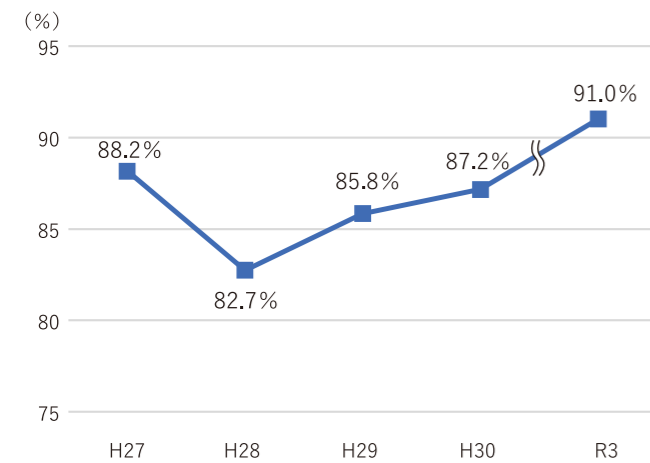
分野 10-1 歴史環境の保存・活用

■現状と課題

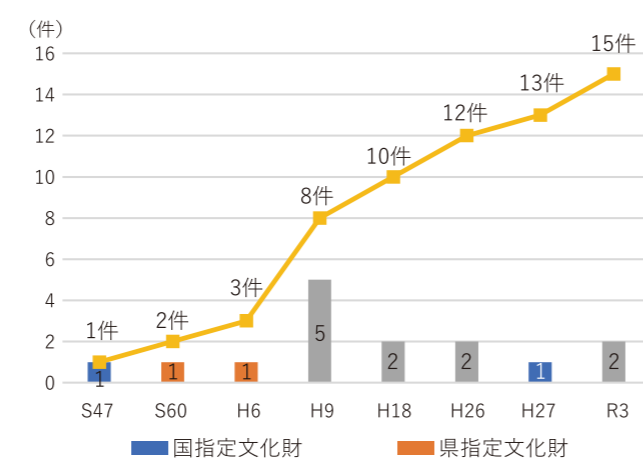
中城における文化財については、これまでも調査研究や整備が行われていますが、特に国の史跡であり世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産でもある「中城城跡」や、同じく国の史跡である「中城ハンタ道」の保存・活用が進んでいます。また、中城城跡やハンタ道以外にも、新垣グスク、ペリーの旗立岩、護佐丸の墓などの優れた文化財が遺存しており、いずれも先人から受け継がれた中城の重要な共有財産です。さらに、集落内に残る御嶽や拝所などの祭祀空間等は、集落における暮らしに密着しており、古くから中城の「とよむ」を支える基盤となってきました。今後は、こうした文化財の保存・活用に向けた取り組み体制をさらに強化することで、情報を広く発信し、村民にその価値を伝えていくことが重要になってきます。そして、文化財のみならず、周辺環境を含めた歴史的風致の保全という視点から、包括的に歴史・文化を守っていく取り組みへと展開させていく必要があります。

■データ

指定史跡範囲における公有化率 (R1.R2 はデータなし)



村指定文化財件数 (指定のあった年のみ記載)



世界遺産中城城跡

■取り組みの方向性と成果指標 (目標指標)

1 学術調査・研究活動の推進

文化財の歴史的、学術的な調査・記録・研究活動を継続して進め、文化財保護への取組みを強化するとともに、これらの成果を適切に発信していきます。

主な取組み	所管課	指標分類
文化財保護の取組み強化のための文化財調査・研究活動の継続	生涯学習課	Ⅲ
中城城跡周辺の発掘調査、歴史民俗資料に関する調査研究の継続	生涯学習課	Ⅲ

2 文化財及び周辺の計画的な保存整備の推進

中城城跡及び中城ハンタ道については保存活用計画の策定を契機とした計画的な保存整備事業を継続していきます。

また、村内に分布する数多くの歴史資源については、これらを取り巻く歴史的環境や美しい自然環境を含めた保存活用を推進します。

主な取組み	所管課	指標分類
中城城跡周辺の計画的な保存整備の継続	生涯学習課	Ⅲ
中城ハンタ道の計画的な保存整備事業の推進と周辺一帯の国指定文化財追加指定へ向けた取組み実施	生涯学習課	Ⅲ
中城ハンタ道の公有化事業の推進	生涯学習課	Ⅰ
村内に分布する歴史資源の保全	生涯学習課	Ⅰ
文化財の保護・継承のための活用・整備の推進	生涯学習課	Ⅲ
集落の立地特性や集落内の文化財、樹木等の保全と環境整備	生涯学習課	Ⅳ

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
指定史跡範囲における公有化率	Ⅰ	92.0%	100.0%	100.0%
村指定文化財件数	Ⅰ	11件	13件	17件

3 関係機関と連携強化

県や関係市町村、各種民間団体のネットワーク化を推進し、保存活用における多面的な展開を目指していきます。

主な取組み	所管課	指標分類
関係機関との連携による計画的な保存整備事業の継続と広域連携を視野に入れた活用の促進	生涯学習課	Ⅲ
団体間及び広域的な文化活動のネットワーク化の促進による新たな文化創造	生涯学習課	Ⅲ



公有化

土地などを国や公共団体が所有すること。

保存活用計画

文化財の保存活用計画は各市町村において取り組んでいく目標や取組みの具体的な内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプラン。



分野 10-2 伝統文化・民俗芸能の継承

■現状と課題

伊集の打花鼓、津覇の獅子舞などをはじめとする地域独自の伝統文化・芸能に関しては、その地域のアイデンティティーを支える重要な柱として継承されてきました。しかし、コミュニティ意識の希薄化や担い手の不足を背景に、その継承が困難になってくるものが出てくるのが予想されます。特に、直近の3年間は、新型コロナウイルスの影響により、活動そのものが休止する等、取り巻く環境は厳しさを増しています。まずは、地域の負担を軽減しながら、指導者等の人材育成や公演の機会創出などに取り組んでいくことが重要になります。さらに、長期的な視点での継承という側面においては、地域の無形文化財に対する記録編纂を実施し、次世代に残していくためのアーカイブにも取り組まなければなりません。

■取組みの方向性と成果指標（目標指標）

1 伝統芸能や風習に関する調査や記録

伝統芸能等についての文献調査、聞き取り調査を継続し、記録編纂を行うための体制を強化します。また、調査結果については勉強会や展示会等を通じて地域へ発信します。

主な取組み	所管課	指標分類
村内の民俗芸能の記録編纂体制の強化及び結果の地域への還元	生涯学習課	III
情報発信システム構築への取組み検討	生涯学習課	IV

2 地域芸能を担う団体への支援

各種団体の育成を支援するとともに、自主的な文化活動の推進体制を強化します。また、若い世代の担い手を増やしなが、継続的な地域文化の発展に努めます。

主な取組み	所管課	指標分類
村民ニーズに対応した多様な文化事業の拡充	生涯学習課	IV
自主的な文化活動の支援拡充による、村文化協会や各文化団体の体制強化	生涯学習課	III
若い世代の担い手増加と継続的な地域文化の発展	生涯学習課	II

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
体験イベントの実施回数	II	1回/年	1回/年	1回/年



民俗芸能（伊集の打花鼓）



**アイデンティティー**  
心理学における概念で自己同一性。

**無形文化財**  
演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的遺産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの。

**アーカイブ**  
一般的には保存記録等と訳されるが、ここでは公共性が高く、のちに重要性をもち得る記録や資料を、まとめて保存・管理する施設や機関および事業のこと。

分野 10-3 住民意識の高揚及び周知啓発

■現状と課題

有形無形に限らず、文化財の保存・継承における最大の課題は、当事者である村民の認知度、理解度の不足です。本村では、「中城ごさまる科」の取組み等によって、子どもたちが歴史文化及びその価値について学ぶ機会が設けられています。しかし、ここ10年の急速な人口増加により、中城の歴史や文化を知らない新しい村民が大幅に増加していることもあり、相対的には歴史・文化に対する村民意識の低下は進行していると考えられます。

まずは、自分たちが住む村の歴史や文化に興味を持ってもらうことが重要です。歴史環境や伝統文化・民俗芸能といった文化財の存在を知ってもらうためのPRを充実させ、さらには村民のみならず、広く村内外にその価値を伝えていくことが必要です。

■取組みの方向性と成果指標（目標指標）

1 ガイダンス施設の整備

歴史民俗資料等に関する調査研究成果の展示と歴史学習の場となる施設の整備を促進します。また学習に加え、観光の拠点、歴史文化の情報発信の拠点となることを目指します。

主な取組み	所管課	指標分類
調査成果の常設展示と歴史学習の場となる拠点整備	生涯学習課	IV

2 歴史文化に触れる機会の創出

文化財を活用した各種イベント等を積極的に開催し、これまで文化財に触れる機会のなかった人たちを巻き込みながら、歴史文化を体験する機会を提供していきます。

主な取組み	所管課	指標分類
歴史・文化の掘り起こしによる新たな発見機会の創出と運営	生涯学習課	II

指標	分類	基準値	前期目標 (R7)	最終目標 (R15)
イベントの実施回数	II	1回/年	1回/年	1回/年



**ガイダンス施設**  
基本的な案内や手引きをするための施設。

3 広報・周知の強化

戦略的な広報を実施することで、わかりやすい情報を広く中城内外に届けていきます。また、講座等に加え、案内板、解説板の整備等も充実させながら、学習機会を創出します。

主な取組み	所管課	指標分類
保護意識高揚のための文化情報の整備と定期的な周知広報	生涯学習課	III
文化財学習をはじめとした多様な文化活動への参加機会の創出	生涯学習課	III



護佐丸歴史資料館より「ごさまる通信」





民俗芸能（津覇の獅子舞）



南上原組踊保存会による組踊上演「糸蒲の縁」  
(児童生徒の部)



護佐丸歴史資料図書館での企画展



こどもガイドによる文化財巡り